

学校林活動による児童の森林に対する意識変容について
ーアンケート調査を活用した取組の改善ー

関東森林管理局 山梨森林管理事務所 森林整備官 ○平田 和嗣
主事 ○遠近 深空
(元 山梨森林管理事務所) 田中 裕貴

1 問題意識と目的

人と森の間にある様々な問題の根源は何でしょうか。森に対する〈人のふるまい〉に着目すると、私たちの生活が森に支えられていることを忘れ、森の恵みを無関心に享受するなど、人と森の相互的な関係の喪失が根源に発見されます。このような問題意識の下に、人と森の関係構築の観点より、幼少期からの森林体験や森林の正しい知識習得の重要性が指摘されます。“森と関係を築くように学ぶこと”を目的に、当所で長年地元小学校と協同している学校林活動について、取組の改善を行いました。

2 取組の改善

授業構成の改善は、体験と知識が結びつくような縦軸のストーリーを持たせることを意識し、小学校と市役所の3者打合せにより検討を行いました。加えて、児童の森林に対する意識の変化を把握するためのアンケートを活動の事前・直後・事後の計3回実施し、事前アンケートの結果を出張授業の内容へ反映していき、学校林活動の効果を検証し来年度の活動の検討に活かすなど、根拠に基づく改善となるように心がけました(表1)。

表1 取組の改善とスケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
従来(R5)	学校打合せ			活動準備	丸太切り 木工体験	調べ学習	作文	
改善(R6)	第1回 学校打合せ	事前:児童 アンケート (授業設計・ 対照回答)	第2回 学校打合せ (授業構成)	第1回 出張授業 活動準備	第2回 出張授業 丸太切り 木工体験	調べ学習 直後:児童 アンケート (効果検証)	作文 事後:児童 アンケート (定着確認)	第3回 学校打合せ (来年度に 向けて)

3 アンケート調査の方法と結果

アンケートの内容は、森林への好感や生活との関りに関する尺度評価と記述による森林や林業のイメージの変化把握です。特に記述では、言葉が世界との関係を表すと考え、ワードクラウドにより登場する語句の変化をとらえました。結果を抜粋すると、森林が生活に深く関わっていると感じる児童が活動の前後で77%から98%に増加し、森林のイメージに関するワードクラウドを比較すると、「森林＝自然」という漠然的なものから、「より具体的な関係を表す語句」+「場所」という組み合わせの登場が多くなる変化が見られました。今回重要視した縦軸である、森林の多面性を座学で学び、現地で体感し、作文で言語化することで、自身の生活と森林が結びつき、このような結果につながったと考えます(図1)。

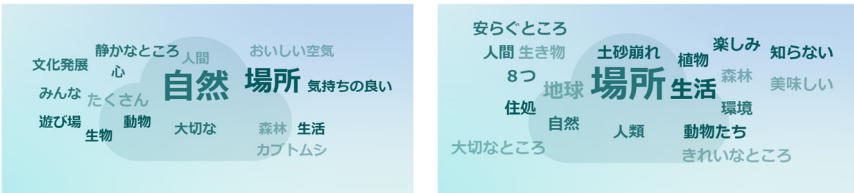


図1 森林のイメージに関するワードクラウド(左:事前/右:事後)

4 まとめ

改善の効果は、従来活動の評価が明らかでないため比較できません。しかし、森林に入る活動の際に「これは森林の〇〇という機能だよ」という児童たちの会話を聞くと「知識と体験の結びつき」を生み出せたと感じました。また、先生を対象としたアンケートでは、「作文の内容が例年と比べて充実した」など肯定的な回答に加え、「林野庁職員が授業を行うことでキャリア教育にもつながった」という想定外の副次的効果に関する回答も得られました。「教える・伝える」ということは、提供側の労力と効果が最初は比例しますが、いずれ主体的に学ばなければ乗り越えられない壁にたどり着くと考えます。人手不足の現場では、小さな労力でこの壁まで導くことが重要であり、今回改善した授業構成の調整と実施体制の維持が今後の課題です。